

2022年2月12日

2021 年度 AG5 報告書



Escuela Japonesa de Aguascalientes A.C.

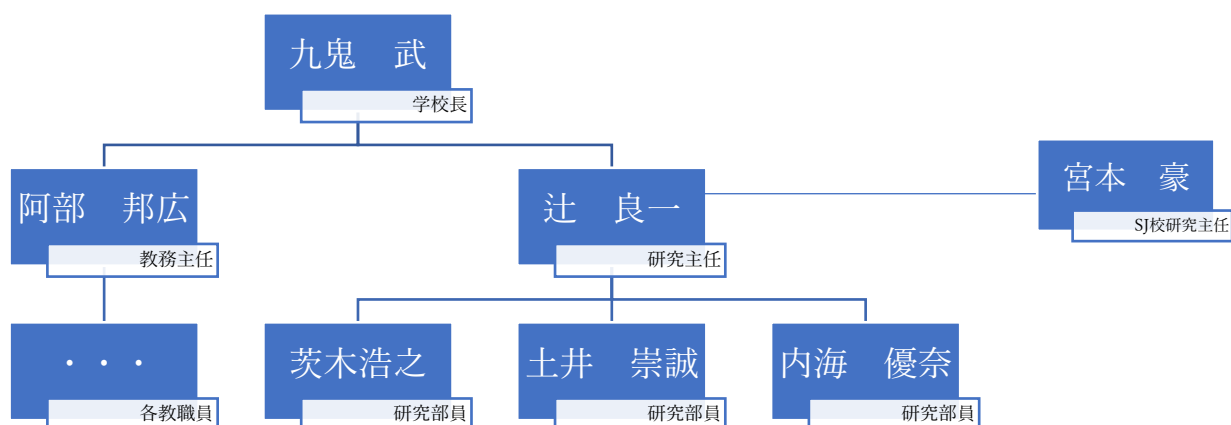
アグアスカリエンテス日本人学校

研究主任 辻 良一

目次

1. 実施体制	P2
2. テーマ	P2
3. 目的と概要	P2
4. 今年度実施した取組み	P3
5. 取組みの報告	P4-21
6. 今年度の成果・課題・まとめ	P22-23
7. 次年度計画	P24
8. 所感	P25

1. 実施体制



氏名	主な担当業務	校内担当	派遣年次
辻 良一	総括・渉外	中学部担当（英語）	2年次
茨木 浩之	合同授業実践研究	小学部担当（3年）	2年次
辻 良一	合同研修	中学部担当（英語）	2年次
土井 崇誠	会計	中学部担当（数学）	1年次
内海 優奈	記録	小学部担当（6年）	2年次

2. テーマ

AG5 テーマ 6	ICT を活用した遠隔での教育の質向上のためのプログラム開発
研究 テーマ (2021)	思考力、判断力、表現力を育む遠隔学習の在り方 —SJ・AC 2校間の主体的・対話的で深い学びを通して—

3. 目的と概要

目的	1 児童生徒の思考力・判断力・表現力を育成する遠隔合同学習の在り方を探求 2 日常的に遠隔地の学校と合同授業を行うことができる ICT 環境や連携体制の確立
概要	2年間の合同研修、合同授業を終え、本年度は3年目のまとめの年度である。そこで本校児童生徒の主な課題である主体的に考え、発言し、発表できる能力を更に伸ばすための方途を、サンホセ校との合同授業に焦点を定め全教員で取り組んだ。 まず研究テーマを両校で統一して、取組をすすめることにした。児童・生徒の思考力・判断力・表現力を育成するためには、継続的に相手校と合同授業を実践していくことが課題であった。何よりも教員自身が気軽に相手校の教員と打合せができないと合同授業の日常化が難しい。サンホセ校のリードの下、2校間の教員同士の打合せ等がスムーズに進み、気軽に合同授業を実施することができた。その結果、校長・教頭・教務主任を除く全教員が年間を通して、合同授業を実践でき、成果と課題を明確にし、児童生徒の思考力・判断力・表現力の育成に繋げることができた。そして

	て、実践を他の日本人学校や国内の学校でも参考にしてもらえる提案を提示することができた。来年度以降も合同遠隔授業の成果と課題を踏まえ、継続していくことを両校で確認した。
--	---

4. 今年度実施した取組み

(ア) 2校遠隔合同研修

回	日時	内容	概要
1	4/27	今年度の計画 研究ブロック会	今年度の強化項目・事務局からの研究推進案等の確認
2	5/27	合同学習中間報告会	低・中・高・中学ブロックでの合同学習の様子を報告しあい、今後の計画・実践に生かす方途を検討
3	8/17	遠隔合同研究授業事前 検討会	小6 道徳・中2 国語の研究授業指導案を検討
4	10/26	遠隔合同研究授業事後検討 会	授業者のコメントを交えながら、両校で授業の様子・成果と課題などを交流
5	11/25	総括報告会	全体場で各ブロックごとに、今年度の合同授業を振り返り、総括

(イ) 2校遠隔合同授業の詳細

別添資料① 実施日程一覧

別添資料② 各教員の指導略案・成果と課題・提案・教室レイアウト図等

(ウ) 環境整備

	購入物品	使用用途	備考
1	iPad・ApplePencil・iPad カバー・Apple アダプター Web カメラ・無線マウス マイク付Bluetoothウース ピーカー・移動式テレビ台 延長コード	遠隔合同授業	
2	Wi-Fi 中継器	教室内の Wi-Fi 環境改善化	
3	SD メモリーカード	遠隔合同授業の記録媒体	
4	HDMI ケーブル・アダプ ター類	Zoom と外部機器との接続	

5. 取組の報告

令和3年度 AG5 研究計画

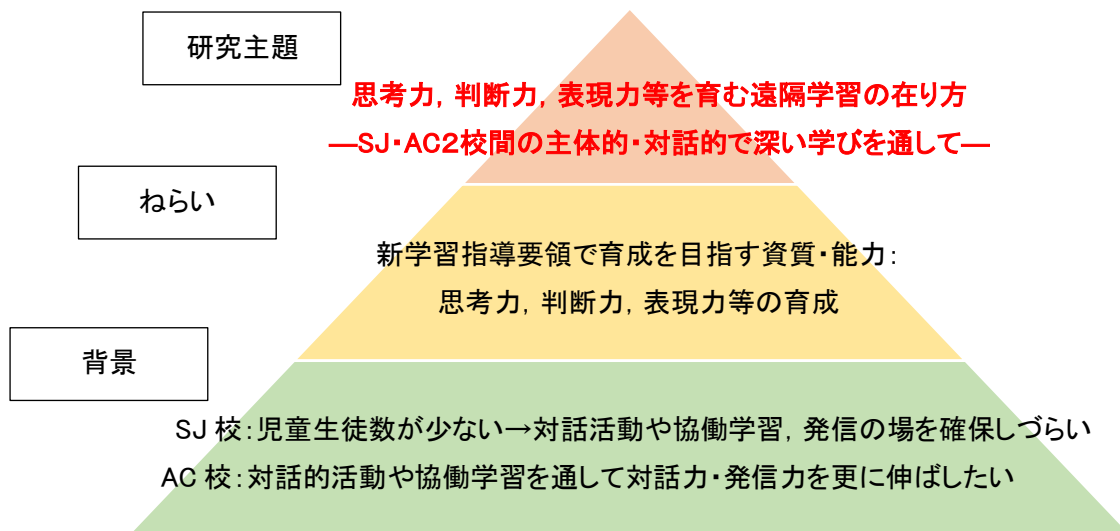
第1回 校内研修会 ・ 第1回サンホセ・アグアス合同研修会

1 研究の方向性

AG 5 テーマ	ICT を活用した遠隔での教育の質向上のためのプログラム開発
今年の強化項目	① 学校と学校を日常的に繋ぐこと（学校の壁を超えた繋がり） ② まとめと汎用性（他の学校でも活用可能，継続し易さ）
AG 事務局からの研究推進案	(1) 4校合同研修（毎月） (2) 合同研修会や合同研究授業（各4回以上） (3) パターンランゲージによる手立てのまとめ (4) ICT 環境デザイン (5) 現地校出張交流（8月末～9月） (6) ヒアリング（8月まで） (7) 代表的な実践事例の提示

本年度は日常的な遠隔交流を目指して，9月頃までに昨年度より多くの実践を重ねていく。9月以降も交流を継続しつつ，研究の成果を報告書にまとめていく。

2 研究主題



本年度はサンホセ校，アグアス校共に共通の研究主題とする。主体的・対話的で深い学びを行うことで子どもの思考力，判断力，表現力等を伸長させることを目標とする。

3 研究の進め方

日常的に遠隔交流を行う計画を立てるのではなく，日常的に遠隔交流をするための方法を模索し

ながら、柔軟な対応を目指す。そのために、本年度は2校を4つのブロック（低学年部、中学年部、高学年部、中学部）に分けて、各ブロックで合同授業に向けての計画や連絡等を行う。

① 各ブロックで 打ち合わせ	・月に一回ブロック会をZoomで開き、各教科の進捗状況や、合同学習をする授業があるかなどを話し合う。
② 該当教員間で 計画	・zoomチャット等で打ち合わせを行い、具体的な合同学習の形態や合同授業の希望時期を決める。
③ 日程調整 ・日時決定	・合同授業を行う場合は、日程調整を行う。 ・間接交流の場合は必要なし。
④ 実践	・直接交流または間接交流による実践を行う。
⑤ 簡易報告書作成	・①必要性 ②手立て ③結果を簡単に記録する。 ・主体的・対話的で深い学びの成立条件をふりかえる。

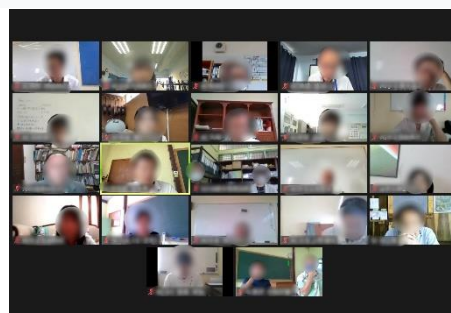
4 合同研修のふりかえり

【今後学んでみたいこと】

- ・ SJ校が教室で、AC校がZoomで交流授業をする際の教師の手立てを学びたい。
- ・ サンホセ校は対面授業が再開しているので、合同研修はもちろん、普段の取り組みについても気軽にご相談できるような関わり方をしていきたい。
- ・ 合同学習を継続させていくために、簡単な交流を続けていきたい。

【感想】

- ・ 色々な人との交流の中で、私自身だけでなく、子どもたちも成長できることを楽しみにしている。
- ・ 日々試行錯誤しているが、合同で研究を進めることで、新たな視点や手法を学びたい。
- ・ 直接型と間接型と2つのパターンを打ち出したことで、研究目標の1つである「日常化」に迫りやすいと感じた。間接型から気軽に取り組み、直接型につなげていければと考えている。



令和3年度 第2回サンホセ・アグアス合同研修

合同授業実践中間報告会

本研修は、各ブロックにおける計画の立て方や合同学習の様子を報告し合うことで、今後の合同学習の計画・実践に生かすことを目的に行われた。

1 高学年ブロック 直接交流での実践報告

(1) 小学部第6学年 国語科

単元	話す聞く「聞いて、考えを深めよう」
合同授業内容	第1時 「よい聞き方」について見通しを持つ。(直接交流) 第4時 1つのテーマで話し合う。(直接交流) 第5時 自分の考えをまとめ直し、動画を送り合う。(間接交流)
合同授業までの流れ	① 第1回合同研修ブロック会で単元決定 ② 簡単な指導計画を Google チャットで共有・授業日時を決定 ③ 授業前にあいさつ動画で間接交流 ④ 詳細な指導案を Google チャットで共有・意見交流 ⑤ T1 と T2 で、Google スプレッドシート・ドキュメントを活用し、授業の情報共有

(2) 小学部第6学年 社会科

単元	大昔のむらのくらし
合同授業内容	歴史の学習の導入をゲーム形式で行う。(直接交流)
合同授業までの流れ	① Google チャットでの資料交換 ② 放課後に打ち合わせ(15分程度)

2 中学部ブロック 間接交流での実践報告

(1) 中学部第2学年 社会科

単元	歴史「信長 vs 秀吉 どちらが優れているか」
合同授業内容	サンホセ校の発表を聞いて、アグアス校が判定を行う。(間接交流) アグアス校2年生に加え、3年生も動画を視聴しアドバイスをした。
合同授業までの流れ	① Google チャットで提案・連絡 ② Google ドライブで交流動画・資料の交換

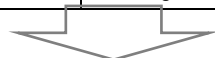
(2) 中学部第1学年 国語科

単元	「情報を通じて書こう」
合同授業内容	サンホセ校が「コスタリカのよさ」についての作文を送り、アグアス校は文章で感想を送る。(間接交流)

3 意見交流

成果	課題
・ 作品や考えを評価してもらえる。 →学習意欲の向上	・ 動画視聴や撮影の時間を確保するのが難しいときがある。

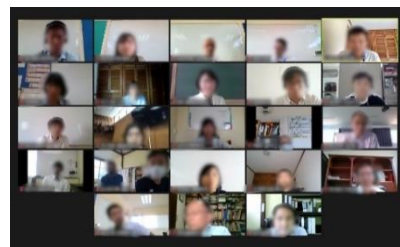
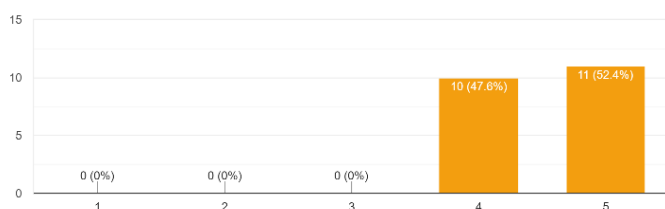
- 少人数学級では、他の同級生の意見が聞けるのは貴重な体験になる。 →考えが広がる・深まる 友達との関わりを学べる - 間接交流は、授業時間を合わせずに気軽にできる。 →日常的な交流の実現 2校の教員同士の距離が縮まった。 - Zoom チャットも活用可能 - 交流の実践をしながら、効率的な打ち合わせのしかたを探る。 →打ち合わせの負担軽減	→時間確保の工夫が必要 - オンラインでは表現方法に限りがある。 →表現方法をどう多様化するか - 直接交流をする場合の進度調整 - 不在の学年がある場合の交流 →学年をこえた異学年交流の工夫 - 各ブロックの実践を共有する。 →他学年でも活用可能で、効果的な実践をまとめる。 - 気軽に交流授業を行うことで、どちらか1校が一方的に授業を行うことにならないか。
---	---



今後の展望
- 気軽な間接交流・直接交流の継続 →教員向け・児童生徒向けに見える形で、交流の軌跡を掲示して積み重ねていく。 - 交流授業の際に、より互いの意見を比較しやすくする。 →ワークシートや教材等を共有して使用する。 - 学年をこえた合同授業を行う。 →各学年の目標を達成する異学年合同授業 異学年で交流することでより目標の達成に迫れる工夫が必要

4 合同研修のふりかえり

中間報告会を聞いて、遠隔合同授業のイメージが深まりましたか。
21件の回答



【感想】

【感想】

- 合同授業計画を短時間で効率よく作り上げるためには、やはり、参加している先生方どうしの人間関係が良好であることがまず大切だと感じました。
- 「目的一手立てー成果と課題」などの簡単な形でよいので、取り組みを蓄積・交流していけるとよいと思いました。

令和3年度 サンホセ・アグアス2校合同授業の様子

アグアスカリエンテス校とサンホセ校の各学年で6月に行った様々な教科での2校合同授業の実践は次の通りである。

1 小学部1年生 国語科「わけをはなそう」 直接交流授業

(1)授業の目標 理由を表す言葉を使って、自分の気持ちや経験を表現することができる。

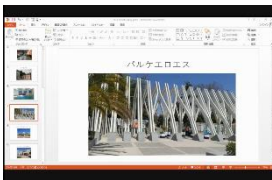
(2)合同授業の流れ

交流形態	学習活動
直接交流 第1時	1. 理由を表す「どうしてか」というと～だからです。」という表現を知る。 2. サンホセ校の児童と一緒に、Zoomのブレイクアウトセッションで2人1組に分かれ、絵の人物の気持ちを説明する。 
直接交流 第2時	1. 自分の気持ちとその理由を、ブレイクアウトセッションで3人1組に分かれて発表する。 2. 同様に全体で発表する。 

2 小学部3年生 社会科「市の様子」 間接交流授業

(1)授業の目標 身近な市について発表し、市によって違う特徴があることが分かる。

(2)合同授業の流れ

交流形態	学習活動
各校で 授業	1. アグアス校・サンホセ校各校で自分の住んでいる市について学習する。 2. 自分の住む市の特徴や施設（博物館、公園、プールなど）についてまとめ、紹介動画を撮影する。 
間接交流	お互いの市の紹介動画を見て、感想を書いて送る。

3 小学部6年生 道徳科「B(10)友情、信頼『ロレンゾの友達』」 直接交流授業

(1)授業の目標 友情について考え、友達を信じる気持ちや大切に思う気持ちを育む。

(2)合同授業の流れ

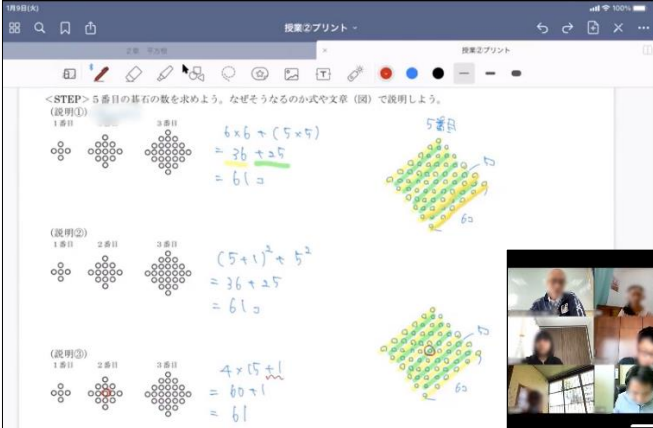
交流形態	学習活動
直接交流	1. 友達ならどんなことがあっても信じられるかを考える。 2. 「ロレンゾの友達」を読み、もしも友達が罪を犯したら、自分ならどうするかを話し合う。 3. 考え方の異なるロレンゾの友達3人から、共通する友達への思いを見つける。 

	4. 本当の友達とはどのようなものかを考え、発表する。 5. 本時のふりかえりを書く。
--	---

4 中学部1・2・3年生合同 数学科「文字の式」 直接交流授業

(1)授業の目標 規則性を図や式で表し、文字を用いる有用性を理解することができる。

(2)合同授業の流れ

交流形態	学習活動
直接交流	1. 碁石の並び方の規則性を説明する。 2. 課題① 3番目の碁石の数を求める。 まずは個人で考える。 3. 課題② 5番目の碁石の数を求める。 全体で考えを共有し、説明をより深め、具体的なものにする。  4. 課題③ n番目の碁石の数を求める。 異なる方法での表し方を考え、文字を使うことの有用性を確認する。 5. 本時をふりかえり、個人評価カードを記入する。

5 中学部2年生 英語科 自己紹介 間接交流授業

(1)授業の目標 これまで学習した表現を用いて、英語で自己紹介をすることができる。

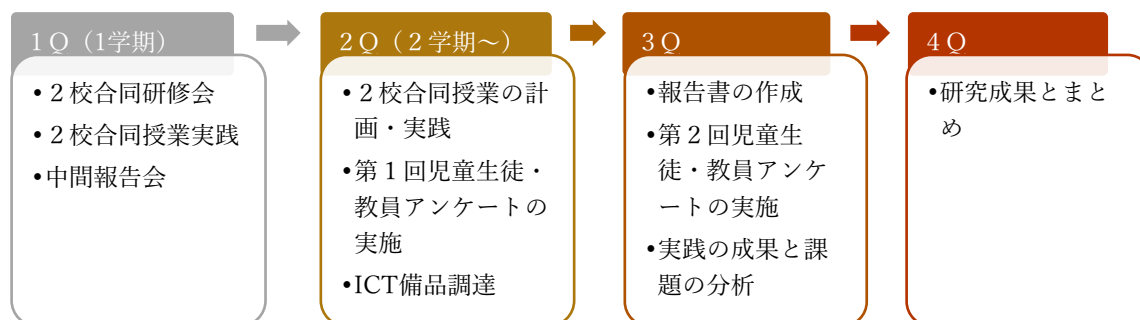
(2)合同授業の流れ

交流形態	学習活動
各校で授業	学習した表現を用いて、英語の自己紹介文を考え、発表動画を撮影する。
間接交流	各校でお互いの発表動画を見る。

令和3年度 アグアスカリエンテス日本人学校校内研修会

本校では7月に令和3年度 AG5 テーマ研究の今後の取り組みについて、校内で共通理解を図るために校内研修が行われた。概要は次の通りである。

1 今年度のこれまで取り組みと今後の予定



2 アンケートの実施

- ・ 目的 : 2校合同授業の成果を図るために、本校の研究主題「思考力、判断力、表現力等を育む遠隔学習の在り方 —SJ・AC2校間の主体的・対話的で深い学びを通して—」に向けて、子どもたちの思考力・判断力・表現力等を育むことができたか、また、教員としてどのように取り組んでいるかを問う。
- ・ 対象 : 児童生徒・教員
- ・ 実施時期 : 2校合同授業の前後である8月と11月

【本研究で目指す児童生徒の姿】

小規模校では、児童生徒同士が関わる人数の少なさから、学び合いの場が限られるという課題がある。本研究では、遠隔授業の中でも子どもたちが協働的に学び合い、自己表現力を伸ばし、考えを深め合う姿を目指す。

【児童生徒用アンケートの例】

- ・ 授業のめあてに向かってがんばろうという気持ちで学習しているか。
- ・ 友達の発表を知りたいと思いながら聞いているか。
- ・ 授業を楽しんで受けているか。
- ・ 合同授業でがんばりたいこと（記述）

【教員用アンケートの例】

- ・ 児童生徒をよく理解しているか。
- ・ 児童生徒が考えを深められるように工夫しているか。
- ・ ICT機器を使用する際のルールやマナーを指導しているか。

- ・ 実施方法 : 児童生徒用・教員用アンケートをそれぞれ Google フォームで作成し、回答の形式は4段階評価で回答するものと記述で回答するものを設定する。

- ・ 質問内容：子どもたちが思考力・判断力・表現力等を高めることができたかを問う項目だけでなく、友達のよさを認め、協働的に友達と関わることができたかを問う項目や、自分の目標や成長を振り返る項目も設定する。

2校合同学習アンケート（児童・生徒用）

学習（がくしゅう）のこと【オンライン授業（じゅぎょう）を中心（ちゅうしん）に】

1 わたしは、授業（じゅぎょう）のめあて向（む）かってがんばろうという気持ち（きもち）で学習（がくしゅう）している。

1 2 3 4

全くそう思わない ○ ○ ○ ○ とてもそう思う

2 わたしは、授業中（じゅぎょうちゅう）よく発表（はっぴょう）している。

1 2 3 4

全くそう思わない ○ ○ ○ ○ とてもそう思う

図1 実施予定のアンケートイメージ

3 パターンランゲージでの実践のまとめ方について

課題を感じた事例に対して、どのように工夫すれば課題を解決できるかという方法について実践をもとにして3段階の表記でまとめたカードを作成する。

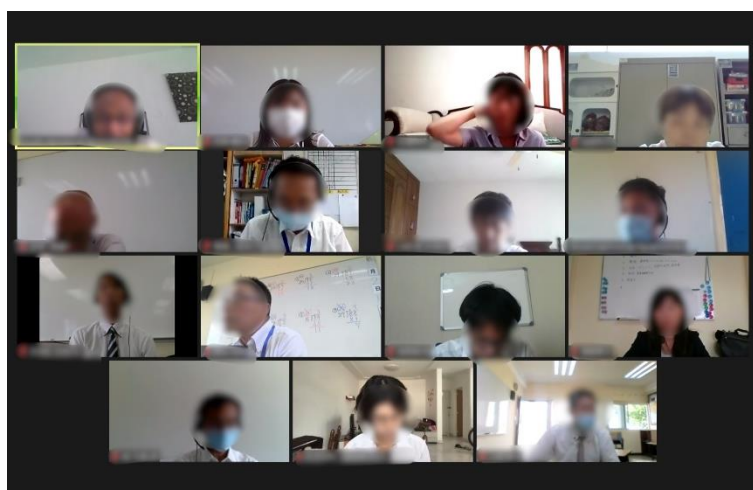
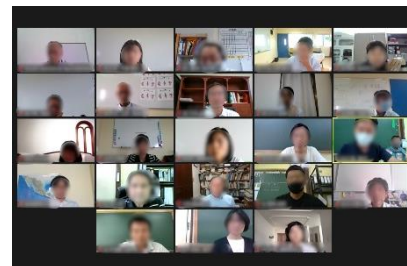


図2 校内研究の様子

令和3年度 サンホセ・アグアス2校合同研修会

1 本研修の意義と流れ

研究授業の検討会を2校合同で行うことで、多様な見方から授業内容を検討し、教育技術を共有したり、より良い手立てを考えたりする。



2 研究授業検討会

(1) 中2国語科授業案説明

1 単元名	「立場を尊重して話し合おう」 (5時間)
2 目標	「救急車の利用を有料にすべきである」というテーマについて、異なる立場や考えを想定しながら集めた情報を整理し、伝え合う内容を検討することができる。(思考力、判断力、表現力) A(1)ア
3 指導観	T1 と T2 が討論のモデルを提示することで、「異なる立場を想定する」「互いの立場や考えを尊重する」ことの大切さを実感させる。
4 学習計画 (5時間扱い)	◆ 第0時 アイスブレイク「聞き上手になろう」 ・ 2校の生徒で話すことに慣れ、和やかな雰囲気をつくる。 ◆ 第1時 単元の学習活動への見通しをもつ。(本時として検討中) ・ 討論のモデルを見て良いところを見つけることで、活動のイメージを持ち、めあてを確認する。 ・ 練習用のテーマを用いて、同じ情報でも賛成・反対の立場の根拠になり、異なる立場でも納得できる点があることを実感する。 ◆ 第2時 異なる立場を想定しながら情報を整理する。 ・ 「救急車の利用を有料にすべきである」という討論のテーマについて情報を集める。生徒が自分で調べて得た情報に加え、教師側でも資料を準備しておく。 ◆ 第3時 立場を決めて、考えをまとめる。(本時として検討中) ・ 立場を決めて、グループで考えをまとめる。(人数の偏りがある場合は、学習の意味を伝えて、均等になるように調整する。) ・ 異なる立場の考えをグループで予想して、それに対する答えを考える。 【遠隔でのグループ活動の工夫】 ◎ 端末を2台使って、Google ドキュメントなどのコワーキングスペースで共同作業をしながら話し合う。コワーキングスペースは、授業時間外でも話し合えるスペースにする。 ◎ 賛成・反対の立場をブレイクアウトルームで分け、教師が一人ずつ入り必要に応じて支援する。教師が途中で交代し、異なる立場のグループが話していた内容を共有することもできる。 ・ 全員集合して、課題の達成度を確認する。

	◆ 第4時 互いの立場を尊重しながら討論をする。 ◆ 第5時 討論を振り返り、自らの学びを実感する。
--	--

(2) 質疑応答・意見交流

質問	回答
① 第4時の討論を研究授業の本時にしなかったのはなぜか。	- 第4時の討論はそれまでの授業の積み重ねの発表のようになってしまふのに対し、第1時や第3時は討論に向けて、意見の根拠をつくる時間になるため、生徒が根拠をつくる過程や、その指導の場面を見ることができると考えた。 - 第4時の討論や振り返りの場面も録画をして、これまでの学習を踏まえてどのようなになるのか、動画で共有する。
② 討論の最後にまとめの発言をする時に、自分の考えを整理してまとめていくために、どんな言葉かけや工夫があるか。	- 司会には台本を渡して、意見の共通点に注目してまとめるように促す。 - 討論中は討論メモをとり、相手の考えと自分の考えの共通点や相違点をまとめさせる。討論の前に討論メモを指導する機会がないため、共通点や相違点に目を向けられるように指導したい。
③ 学習の目標である「自分の考えの幅を広げること」とは、生徒のどのような姿か。	司会のまとめの発言と、討論の振り返りの時間を通して、生徒が「自分の考えの幅が広がった」と感じられるのが目標である。
④ 学習の目標である「自分の考えの幅を広げること」のイメージを生徒と共有する場はあるか。	- 第1時で討論のモデルを掘り下げて、具体的な姿をイメージして価値づけ、目標を共有させる。 - 初めての学習内容になるため、目標を共有する手立てを具体的に考え、丁寧に指導したい。
⑤ 授業時のICT環境は、コロナウイルスによる登校状況によって変わるのか。	全員同じ教室から1台のカメラで授業に参加するのか、または、教室に分けて1人1台のiPadで接続して参加するのか、オンラインとオフラインの方法を検討したい。

令和3年度 小学部6年生サンホセ・アグアス2校合同授業の様子

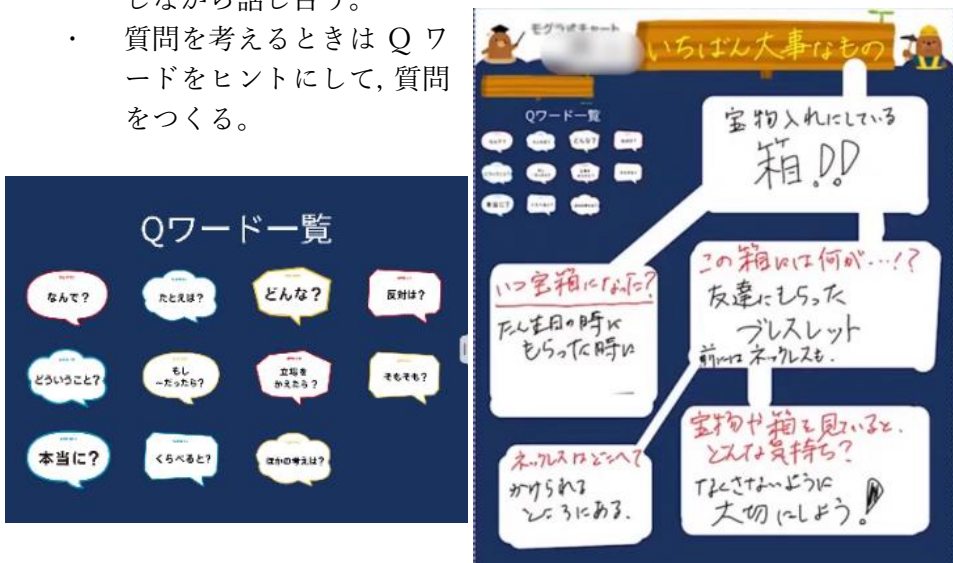
アグアス・サンホセの小学部6年生で、10月に2校合同研究授業を実施予定である。小学部6年生では9月にも数回2校合同授業を実施し交流を深めている。以下では、その実践を紹介する。

1 小学部6年生 国語科「いちばん大事なものは」直接交流授業

(1)授業の目標

互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたり、まとめたりすることができる。

(2)合同授業の流れ

	学習活動・学習内容	
導入	3. 1学期の合同授業で学習した「よい聞き方」について振り返る。	
展開	4. 自分の「いちばん大事なものは」について話し合う。 ・ 質問をされて答える役と、質問する役に分かれて、交代で行う。 ・ 独自のシンキングツール『モグラ式チャート』を用いて、質問とその回答をつなげて、考えを広げたり、深めたりしている様子を整理しながら話し合う。 ・ 質問を考えるとときは Q ワードをヒントにして、質問をつくる。	
まとめ	5. 話し合いの後の自分の考えの変化を振り返る。 ・ 友だちの質問に答えるうちに、自分の考えが深まったり、広まったりしたことに気づく。	

2 小学部6年生 道徳科 A(4)個性の伸長『ふつう』ってどういうこと?」直接交流授業

(1)授業の目標

「ふつう」という考え方が時代や場所、人によって異なることを理解し、自分の感じ方も友達の感じ方も大切にする考え方を育む。

(2) 合同授業の流れ

	学習活動・学習内容						
導入	3. 「ふつう」とはどういうことかを考える。						
展開	4. 「ふつう」についての動画を視聴する。 5. 「ふつう」とはどういうことかを話し合う。 ・ 問い（疑問に思ったこと）を考え、発表する。 ・ 友だちの問いについて、自分の考えを発表する。 ・ 問いとその回答はシンキングツール『モグラ式チャート』でまとめ、考えを視覚的に広めたり、深めたりしていく。						
まとめ	6. 「ふつう」とはどういうことかを考え、まとめる。 ◆今日のみんなの話し合いをふり返り、あなたが考える「ふつう」とはどういうことか、自分の考えをまとめてみよう。 <table border="1"> <tr> <td></td><td>普通の人って、他人と同じということだと思います。でも、他人と同じの人って自分らしさが無い人ということになるので、私は、普通じゃない人の方がいいと思います。</td></tr> <tr> <td></td><td>普通は自分の出来る範囲のことを普通だと思う。もし普通が全部同じだったら、あんまり早くない人や勉強ができない人がいやな気持ちになったりするから。</td></tr> <tr> <td></td><td>普通は人それぞれの個性のような物でもあるし、見方によって平均(当たり前)のような物でもあった。ただし人によって普通は違うので自分と違うところもそこが相手にとっての長所のような所なのかもしれないんだと理解した。</td></tr> </table>		普通の人って、他人と同じということだと思います。でも、他人と同じの人って自分らしさが無い人ということになるので、私は、普通じゃない人の方がいいと思います。		普通は自分の出来る範囲のことを普通だと思う。もし普通が全部同じだったら、あんまり早くない人や勉強ができない人がいやな気持ちになったりするから。		普通は人それぞれの個性のような物でもあるし、見方によって平均(当たり前)のような物でもあった。ただし人によって普通は違うので自分と違うところもそこが相手にとっての長所のような所なのかもしれないんだと理解した。
	普通の人って、他人と同じということだと思います。でも、他人と同じの人って自分らしさが無い人ということになるので、私は、普通じゃない人の方がいいと思います。						
	普通は自分の出来る範囲のことを普通だと思う。もし普通が全部同じだったら、あんまり早くない人や勉強ができない人がいやな気持ちになったりするから。						
	普通は人それぞれの個性のような物でもあるし、見方によって平均(当たり前)のような物でもあった。ただし人によって普通は違うので自分と違うところもそこが相手にとっての長所のような所なのかもしれないんだと理解した。						

令和3年度 第4回サンホセ・アグアスカリエンテス日本人学校合同研修会

多様な見方から成果を見出し、共有することを目的に、10月にアグアス・サンホセの小学部6年生と中学部2年生で行われた合同研究授業の事後検討会を両校合同で行った。以下はその記録である。



1 中学部2年生 国語科 「立場を尊重して話し合おう」(5時間) 直接交流授業

(T1 上野教諭 T2 田原教諭)

(1) 授業の目標

「救急車の利用を有料にすべきである」というテーマについて、異なる立場や考えを想定しながら集めた情報を整理し、伝え合うための内容を検討することができる。

(2) 合同授業の流れ

	学習活動・学習内容	
導入	6. 前時の学習内容を振り返り、単元の学習内容を確認する。 ・前回はテーマについての情報を集めた。 ・どちらの立場でもメリットとデメリットがあった。 7. 本時の学習内容を確認する。	
展開	自らの立場を決めて、異なる立場や考えを想定しながら伝える内容をまとめよう。 8. 賛成派・反対派の立場を決める。 9. 賛成派・反対派に分かれ（ブレイクアウト+Google ジャムボード）、根拠を列挙した後に分担する。 討論において、誰がどの意見を言うのかを確認する。 10. 異なる立場や考えを想定する。	
まとめ	11. 全員集合して、進捗を確認し、課題の達成度をまとめる。 異なる立場や考えを想定しながら意見をまとめられた。 12. 次時の確認をする。（コワーキングスペース（Google ジャムボード）は授業後も開放することでやりとりできる。） 13. 学習を振り返る。	

(3) 授業者からの感想・質疑応答

- ・ 人数的にも合同授業でなければできない学習で、生徒にとって貴重な経験になった。
- ・ アイスブレイクを単元の冒頭に入れたことで、いきなり討論をするよりもコミュニケーションがスムーズにいき、学習が成立した。
- ・ 学習後の生徒のアンケート結果では、「討論の学習はとても楽しかった」「よい学びになった」という結果が多く、新しい友達との討論を通して学習が深まり、生徒自身も合同授業ならではの価値を感じることができていた。
- ・ 支援が必要な生徒については、学級の教員が支援を考え、事前に教員間で共有した。

2 小学部6年生 道徳科 B 友情、信頼 「コスモスの花」 直接交流授業

(T1 下重教諭・T2 内海教諭)

(1) 授業のねらい

いつもは目立たない北山が友達から賞賛されたことを快く思えない「ぼく」の姿を通して、友達とはどんな存在なのかについて考えさせ、真の友情を育て、互いを尊重し合う健全な友達関係を築こう

とする心情を育てる。

(2) 合同授業の流れ

	学習活動・学習内容
導入	1. 「ロレンゾの友達」の時の振り返りの内容をもとに、「本当の友達」について改めて考える。 ・自分にとって「本当の友達」とは、信用できる人のこと。
展開	2. 「コスモスの花」を読んで話し合う。 「ぼく」にとって北山は、友達と言えるのだろうか。 ・周りが北山のことを悪く言ったときに「やめろよ」と言ったから友達だと思う。 児童の考えから、考えを深めていくための新たな問いを引き出す。問いの視点となる「Q ワード」を活用する。 (ロイロノートにあるモグラ式チャートを画面共有しながら書きこむ。)
まとめ	3. 学習を振り返る。(Google ドキュメントに記入) 自分にとって友達とはどんな存在なのか。 ・お互いのよいところを認め合える存在。

(3) 授業者からの感想・質疑応答

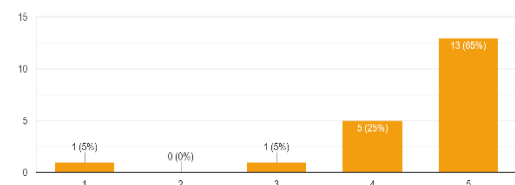
- 主体的・対話的で深い学びのツールとして、モグラ式チャートの有効性を感じた。初めに主発問を提示することで、本筋からずれることなく、問いを立てて話し合いを進めることができた。モグラ式チャートに書きこむ際は、児童の言葉を一般言語化してキーワードに変えることでまとめていることもできる。
- 各教室から1人1台のタブレットを使用し、「見える・聞こえる」といった ICT 環境を設定にしたことで、児童が安心して発言できることにつながった。マイクスピーカーやイヤホンマイクなど、学習内容や学級の実態に合わせて環境デザインをするとよい。
- T1とT2の役割を分担することで、円滑に話し合いを進めることができた。

3 合同研修会の振り返り・感想

子どもたちの変容した姿が見られたことが、大変大きな成果だったと思う。

- AG5 が終わっても近くの日本人学校として、これからもお互いが必要な時に交流していけるとよいと思う。

合同研修会を通して、「主体的・対話的で深い学びに関する視点」への理解が深まりましたか。
20 件の回答



令和3年度 第5回サンホセ・アグアスカリエンテス日本人学校合同研修会

11月の合同研修では、本年度の実践の成果と課題を共有し、今後の各校の研究のまとめや研修へ生かすことを目的に、各部会による実践報告を行った。



1 各部会による実践報告

(1) 低学年部(小学部1・2年生)

実践	- 小学部1年 国語科「わけを話そう」(直接交流) グループで話し合いや発表を行い、自身の経験を伝え合った。 - 小学部1年(SJ校)・2年(AC校) 生活科「おもちゃランド」(直接交流) SJ校の児童をAC校の「おもちゃランド」にオンラインで招待した。
成果	○ 児童数の差が大きくても、工夫して合同授業を行えた。 ○ アイスブレイクを行ったことで、児童同士が早く打ち解けることができた。 ○ 人数が増えたことで、多様な友達の考えに触れることができた。 ○ 他の国の日本人学校の友達の様子を知ることができた。
課題	◆ 低学年の実技教科での合同授業の実施は課題が多い。 ◆ 複式学級でも対応しやすい生活科の授業をもっと行えばよかった。 ◆ 2校間で通信環境の差が大きいと授業しづらかった。

(2) 中学年部(小学部3・4年生)

実践	- 小学部3年 理科「植物の育ち方」(間接交流) 動画やJamboardで発表や感想を互いに送り合い、単元の学習に生かした。 - 小学部4年 社会科「新聞づくり」(直接交流) 新聞を発表し、感想を伝え合う交流を重ね、よりよい新聞作りにつなげた。
成果	○ 学習進度の差があっても、間接交流で交流を重ねられた。 ○ 他校の同級生に発表することで、学習の意欲が高まった。 ○ 相手を意識した発表を考えることができた。 ○ 前の授業の成果を取り入れて改善することで、伝える力が高まった。
課題	◆ 2校の児童のICTスキルに差があり、授業で機器を用いるのが難しかった。 ◆ 児童数が多いAC校が教室から直接交流授業をする時は、ICT機器で教室同士をつなぐ環境調整が難しかった。 ◆ 校内の教員間で合同授業実践の共有が十分にできなかった。 ◆ 2校の担任間で話し合い、授業の計画をする時間がもっと欲しかった。

(3) 高学年部(小学部5・6年生)

実践	小学部6年 国語科「聞いて考えを深めよう」(直接・間接交流)
----	--

実践	合同授業での話し合いを通して、よい聞き方について学習した。 - 小学部 6 年 国語科「私と本」(間接交流) 本の紹介動画と感想の動画を送り合い、ブックトークを行った。 - 小学部 6 年 道徳科「ロレンゾの友達」「コスモスの花」(直接交流) 1 学期と 2 学期に関連する内容の授業を行い、話し合っ て考えを深めた。
成果	○ 4 月から何度も行った実践が、他学年や他教科の実践に発展できた。 ○ 少人数学級の児童にとって自分の考えを伝え、深める機会になった。 ○ Google チャットを活用して簡単に授業の打ち合わせができた。
課題	◆ ICT 環境が更に充実し、教科・単元の内容によってマイクスピーカーやマイク付きヘッドホンなどを選択できるとよい。 ◆ 更に様々な教科・単元で多様な実践を重ねたかった。 ◆ 研究の目的だけでなく、今後も交流の機会を設けていきたい。

(4) 中学部(中学部1・2・3年生)

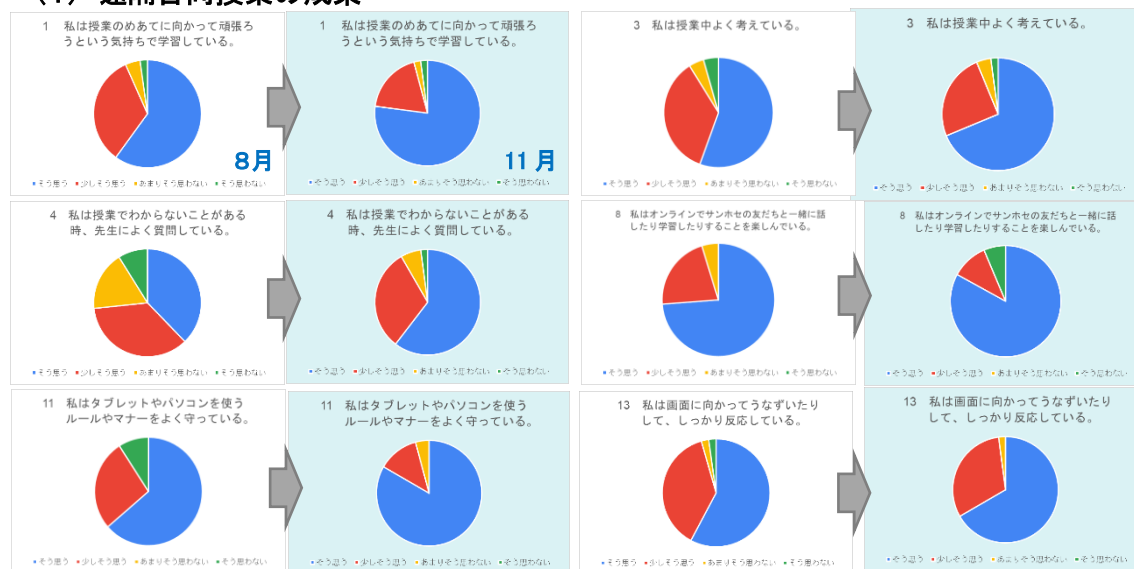
実践	- 中学部 1 年・2 年・3 年 数学科「文字の式」(直接交流) 異学年の学習段階の違いを活用して、文字を用いた計算について説明した。 - 中学部 1 年・2 年・3 年 総合科「ビジネスシーン検討会」(直接交流) 生徒と教員と一緒に本音で話し合い、新しい考えに触れた。 - 中学部 1 年・2 年 道徳科「日本の伝統文化」(直接交流) 貴重な人材のつながりを共有し、ゲストティーチャーから話を聞いた。
成果	○ 授業内容を工夫することで、学年を超えた合同授業ができた。 ○ 普段と違う友達に、対面よりも難しいオンラインで伝えることで、よりわかりやすく、意見を深めたものを発信しようという学習の意欲が高まった。 ○ 普段と異なる友達や先生から評価をしてもらうとことで、自信がついた。 ○ 様々な考えに触れて、友達と違う意見や自分の本音を言えるようになった。 ○ 友達との自分との感覚の違いに気づき、考えの幅が広がった。 ○ 日本人学校内の限られた人間関係から、他校に新たな人間関係ができた。 ○ 合同授業や合同研修、日々の交流を通して、教員同士の学び合いができた。 ○ 2 校で授業の視点が異なる場合も、交流することで新たな視点に気づけた。
課題	◆ やり方次第ではもっと複式の交流ができた。複式の授業では、下の学年は発展的な学習、上の学年は振り返りの学習になり、学習を高められる。 ◆ 2 校の年間計画の違いによる進捗調整が難しかった。早めに交流時期の相談をして、間接交流を学習のモデルや振り返りとして行うことも検討する。 ◆ 直接交流は準備の負担がある。無理のない範囲で効率を重視して行う。

令和3年度 SJ・AC 日本人学校合同授業の振り返り

2校合同授業の前後である8月と11月に、児童生徒と教員を対象にして、本校研究主題「思考力、判断力、表現力等を育む遠隔学習の在り方 ―SJ・AC2校間の主体的・対話的で深い学びを通して―」に向けての成果を図るアンケートを行った。

1 児童生徒へのアンケート

(1) 遠隔合同授業の成果



サンホセ日本人学校との合同授業で自分が頑張ったこと(児童生徒回答)

- 自分の意見を相手に伝わるように分かりやすく発表することを頑張った。
- たくさんの意見を言えた。説明も伝わるように発表して楽しんだ。
- 討論の前の話し合いの時に、サンホセ校の子がなかなか自分から意見を言えないかなと思って、話を振ったり聞いてみたりして、話しやすい雰囲気を出そうとした。

合同授業を通して、児童生徒の授業に取り組む意欲が高まり、より考えを深めたり、発表したりするようになったと言える。また、合同授業でタブレットを利用したことで、ICT 機器を利用する際のルールやマナーへの理解が深まったと考えられる。

(2) 遠隔合同授業の課題

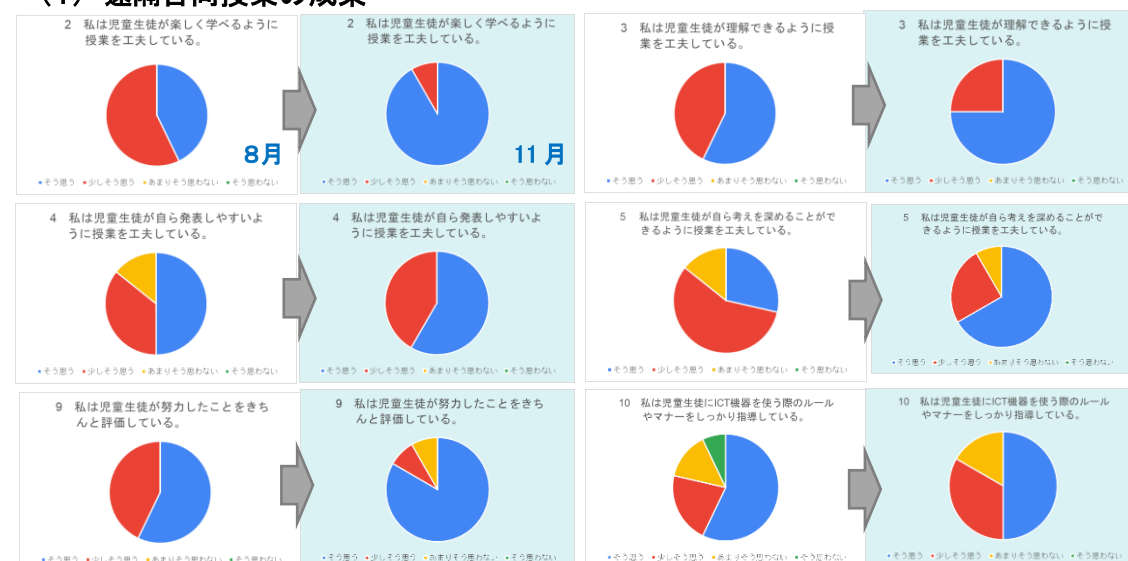


遠隔合同授業では教室での授業に比べて活動に制限があるため、ブレイクアウトルームを活用するなど

児童生徒が発言できる場を設ける工夫が必要である。児童生徒は ICT 機器の活用方法に関心があり、多様な教科での様々な活用方法を模索し指導していくべきである。

2 教員へのアンケート

(1) 遠隔合同授業の成果



ICT を活用した授業の工夫

- タッチパネルのプロジェクターやデジタル教科書の使用
- Jamboard などの Google アプリケーションでの記録や共有、画面共有での発表
- クラウドを活用した毎日の自学の取り組み支援

合同授業や合同研修を通して、児童生徒がより考えを深めたり、楽しく表現したりする様々な授業実践や指導法が共有され、教員の授業力の向上につながったと考えられる。児童生徒への評価はルーブリックを用いることで、単元の目標を明確に示すことができた。ICT 機器についても、校内研修を行い、教員同士で学び合いながら子どもたちに指導を行った。

(2) 遠隔合同授業の課題



遠隔合同授業では、一緒に授業を行うサンホセ校の児童生徒への理解も必要となる。2校の教員同士で事前に情報を交換することが大切になるが、実際に授業をしてみると支援が必要な児童生徒への対応では難しさを感じた。Google チャットなどの気軽に連絡できる方法で T1 と T2 で打ち合わせを行い、協力して授業をつくっていく必要がある。

6. 今年度の成果・課題・まとめ

アグアスカリエンテス日本人学校 SJ・AC 合同授業成果報告のまとめ

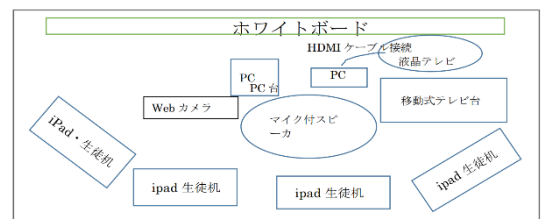
1 学校紹介

- ・ 教育理念 「学びの先に未来を描く」
- ・ 学校教育目標 「国際性豊かで『知・徳・体』の調和のとれた日本人の育成」
- ・ 児童数42名 生徒数11名 教員数16名（2021年10月末現在）

2 令和3年度の合同授業実施状況(2021年11月末現在)

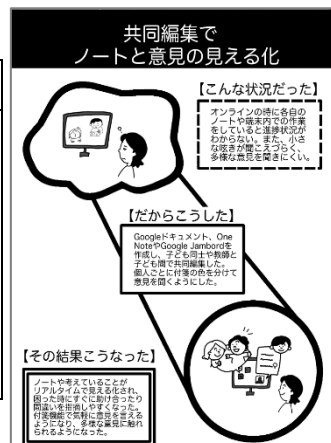
学年	実施教科	実施回数
小学部	1年生 図工, 国語, 道徳, 学活	9回(直接交流3回, 間接交流6回)
	2年生 生活(SJ校小1と合同)	3回(直接交流3回)
	3年生 国語, 理科, 社会	5回(間接交流5回)
	4年生 国語, 社会, 書写	11回(直接交流8回, 間接交流3回)
	5年生 総合的な学習(SJ校小6と交流)	1回(間接交流1回)
	6年生 国語, 社会, 音楽, 道徳, 学活, 総合的な学習	17回(直接交流10回, 間接交流7回)
中学部	1年生 国語	6回(直接交流1回, 間接交流5回)
	2年生 国語, 英語, 社会, 総合的な学習	11回(直接交流7回, 間接交流4回)
	1~3年 合同 数学, 英語, 美術, 道徳	6回(直接交流2回, 間接交流4回)

※ 合同授業の実践にあたっては、「主体的・対話的で深い学び」の視点から、児童生徒の様子や、今後のオンライン合同授業での活用案、ICT 機器の教室レイアウトなどについて報告書を作成した。



3 合同研究授業 中学2年 国語科 合同研究授業

単元	「立場を尊重して話し合おう」
単元計画	0 アイスブレイク
	I 単元と出会い, 学習活動への見通しをもつ。
	II 異なる立場を想定しながら情報を整理し, 互いの立場を尊重しながら討論をする。 (テーマ:「救急車の利用を有料にすべきか」)
	III 討論を振り返り, 自らの学びを実感する。



4 年2回実施したアンケート調査より

学習への主体性と発信力などの課題克服に関する項目と、ICT を活用した授業の工夫についての項

目で年2回アンケート調査を実施し、分析を行った。

教員対象	成果	Google アプリケーションやクラウドなどの ICT の活用や、ルーブリック評価の導入により、「授業を理解できるように工夫している」「努力したことをきちんと評価している」などの項目で割合が増加した。
	課題	「児童生徒をよく理解している」「児童生徒をよく支援している」などの項目で改善の割合が少なかったため、2校の教員同士が手軽な方法で事前に児童生徒の情報交換を行い、協力して授業をつくっていく必要があるといえる。
児童生徒対象	成果	合同授業を通して児童生徒の授業に取り組む意欲が高まり、より考えを深めて発表するようになったことにより、「分からないことがあるとき、先生によく質問している」「授業中よく考えている」などの項目で割合が増加した。
	課題	「ICT 機器をもっと上手に使えるようになりたい」などの項目の割合が高かったことから、児童生徒は ICT 機器の活用方法に関心があり、多様な教科での様々な活用方法を模索し指導していくべきであるといえる。

5 合同授業の成果と課題

成果	- 新しい仲間と一緒に学ぶことが刺激となり、児童生徒の学習意欲が高まった。 - 少人数学級で普段は多様な意見を聞きにくい環境にあるが、合同授業で多くの意見を聞くことで学習内容の理解が深まった。 - 関係の少ない相手に発表することで、話すことに自信がついた。 - メキシコ以外の国の様子を知ることで、国際的な視野が広がった。
課題	- 個別の指導が必要な児童生徒への対応を連携して行う必要がある。 - 授業の内容によってどのような ICT 環境づくりが有効か検討する必要がある。 - 初対面で授業を行う際、グループ活動を活発にするためには、緊張を解くアイスブレイクの工夫が必要である。 - 年度初めの段階で、年間指導計画の確認をしておくことが大切である。

6 提案(合同授業を通して、他の日本人学校や日本の学校の実践に生かしてほしいこと)

- 長期的な計画のもと、間接または直接合同授業を積み重ねていくと、児童生徒同士の関係が深まり、より遠隔合同授業の成果が上がる。
- 間接合同授業は、相手校の進度や時間を意識せず実施できるので実践しやすい。
- 他校と交流することにより、子どもたちは相手意識を強くもって考えを発表するようになり、より主体的に学習に取り組むようになった。
- 図工や美術などの教科では、2校でパーツを作って組み合わせることにより、共同作品を制作することもできる。

7. 次年度計画

アグアスカリエンテス日本人学校で「サンホセ日本人学校からの提案」を検討した結果、サンホセ校の提案に沿う形で合同学習を継続していくことを確認した。

(サンホセ校からの提案)

2022 年度 SJ・AC 校 合同学習体制 提案

1 基本的な考え

来年度以降も継続的に SJ 校と AC 校の合同学習における連携体制をとっていきたい。

しかし、あくまで両校教員の負担にならない・学校運営に支障をきたさない 範囲においての交流

⇒ 交流することで児童生徒・教員にとって+になる交流を！

2 体制の提案

①顔合わせ会、学習発表会などの日時をあらかじめ設定しておく。(年数回の確実に交流する場を設定する)

⇒ その時の学校や国の状況によって困難な場合もある。

また、教員の入れ替わりによって「ただの負担」「意義の欠如」に繋がる可能性もあり

②今年度のように、グループチャットを部会ごとに作成し、先生たちのペースで交流してもらう。

⇒ 1「基本的な考え」に最も則っている。必要があれば①もできる。



②を提案します。

3 来年度の計画（仮）

5月10日（火）… AC・SJ 校教員顔合わせ・部会決定・チャットグループ作成

今後の交流について部会毎に相談

9月27日（火）… AC・SJ 校教員部会

今後の交流について部会毎に相談

※上記2回だけ年間計画に位置付け、各学年の交流についてはその都度チャット等で連絡を取り合っていく。

8. 所感

2021年度は、6月末から分散登校ができるようになり、約1年3か月ぶりに児童生徒が学校に戻ってくることができた。今年度は、研究3年目を迎え、まとめの年となるため、年度当初から、しっかり計画を2校間で検討し、実践できたと思う。そして、全教員が授業実践をし、成果と課題を明確にすると共に、他校への提案を提示できたことは、良かったと思う。

なにより、児童生徒がサンホセ校との合同授業を楽しみにして、色々な意見に触れる機会が増え、自分の意見を発表できる場が増えたことは、本校の課題である、「主体的に学び考え、自分の意見を発表できる力」が確実に伸びてきている点が、最も大きな成果であったと信じている

これは、サンホセ校の宮本先生が常に研究の実践に向けて、テーマ、目標設定、具体的な方途を示してくださり、いち早くグループチャットの開設をして両校の先生方が気軽に打合せができるようにリードして頂いたお陰です。本当にお世話になりました。ありがとうございました。

来年度もこれまでの成果と課題を踏まえ、合同授業を継続していくことを両校で確認しております。更に合同授業を発展させて頂き、両校の実践が更に充実し、児童生徒たちが、より学習に前向きに取り組み、充実した学校生活になることを切に祈っております。

最後になりましたが、サンホセ校の教職員の皆様、本研究に関わってくださった、後藤先生、岸先生、関口さん、関さん、黒木さん、AG5事務局の方々、大変お世話になりました。この場をお借りして感謝申し上げます。最後まで本当にありがとうございました。